

11. 白石踊の主な歩み

- 昭和3年8月10日 白石踊り回向団結成。戦後、白石踊り会と改称。
- 昭和3年8月 山陽新聞社主催、民謡舞踊大会へ出演（於岡山市）第1位入賞。
- 昭和4年8月 同上 連続第1位入賞。
- 昭和6年 郷土芸能大会（於大阪市）へ出演して優勝。
- 昭和9年 讃岐民謡研究会主催の全国民謡舞踊大会（於高松市屋島）に出演して優勝。
- 昭和10年10月18日 第7回広島県選抜盆踊り競演大会（於広島県西条町）に出演して農林大臣賞ならびに特選（大阪毎日新聞社賞）を受賞。
- 昭和23年 白石踊会を結成。会長に西原寅吉氏就任。
- 昭和25年11月3日 文部省主催、昭和25年度芸術祭第一回全国郷土芸能大会に出演して感謝状を受ける。
- 昭和25年11月3日 明治神宮鎮座30年祭の奉納踊りにより明治神宮宮司から感謝状を受ける。
- 昭和25年12月11日 昭和25年度芸術祭第一回全国郷土芸能大会に出演して優秀と推せんされ、文部大臣奨励賞を受賞。
- 昭和26年3月31日 「白石踊りの本然の姿をよく伝え数多くの全国的大会において、日本の芸術としての成果を発揮し、本県古典芸術保存の上に多大の貢献をした」として岡山県教育委員会から表彰状を受ける。
- 昭和26年 白石踊会長に三木行治・岡山県知事就任。
- 昭和27年3月29日 文化財保護委員会から「助成すべき無形文化財」として選定される。
- 昭和28年8月21日 広島県新市町商工会主催の第11回近県盆踊り大会へ出演して感謝状を受ける。
- 昭和32年9月3日 岡山県重要無形文化財として指定される。
- 昭和39年11月2日 白石踊会長に加藤武徳・岡山県知事就任。
- 昭和42年9月14日 各部指導者の任命をする。
- 昭和43年11月3日 多年にわたり白石踊りの普及保存に尽した功績により故西原寅吉会長が、笠岡市長から文化の日功績者表彰を受ける。
- 昭和45年5月27日 日本万国博覧会「岡山県の日」（於万国博会場、地方自治体館）出場。
- ～5月30日
- 昭和45年7月28日 日本万国博覧会「日本の祭り」（於万国博会場内、お祭り広場 構成・演出、原浩一氏）へ総勢100人が出演して好評を博し、日本万国博覧会協会石坂泰三会長から感謝状と楯を受ける。
- ～7月30日
- 昭和46年4月21日 文化庁より文化財保護法（昭和25年法律第214号）第56条の9の規定により「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」として選択される。
- 昭和46年7月31日 郷土芸能の保存・普及に多年貢献した功績により笠岡市観光連盟高橋卓志会長から優良観光団体として表彰される。
- 昭和46年8月31日 岡山県三木記念賞（助成金）を受賞。
- 昭和46年10月1日 NHKテレビ「ふるさとの歌まつり」出演。（於笠岡西中体育館）
- 昭和47年11月11日 白石踊会長に小野博・笠岡市長就任。
- 昭和49年7月17日 NHKテレビ「芸能百選」出演。
- 昭和51年5月4日 第58号重要無形民俗文化財指定（文化財保護法第56条の規定により重要無形民俗文化財として昭和51年5月4日文部大臣により指定され、証書を受く。
- 昭和51年5月 白石踊会長に渡辺嘉久・笠岡市長就任。
- 昭和54年1月1日 山陽テレビ「天領の島唄」で白石踊り音頭が紹介される。

●昭和3年から10年頃の踊り手●



天野(百太郎)



西原亀吉

笠 踊

大原 松市
天野 百太郎
天野 麻布美



▶二つ拍子



◀女踊



◀二つ拍子

昭和3年～昭和10年頃の白石踊会の会員

西 原 亀 吉
 河 田 庄太郎
 中 塚 繁 一
 天 野 花次郎
 中 川 清 松
 山 川 廣 吉
 天 野 千 松
 天 野 九 一
 天 野 仙 松
 天 野 百太郎
 大 原 松 市
 西 原 源 二
 西 原 酉 三
 中 川 源太郎
 天 野 麻布美
 西 原 五 一
 中 川 勝 市
 山 川 か ん
 中 塚 徳 松

天 野 は ま
 天 野 正
 山 川 新
 西 原 以 三
 西 原 と め
 天 野 道
 樋 口 初
 西 原 し の
 天 野 左 人
 原 田 り 与
 天 野 と し
 天 野 光 子
 天 野 ヤツノ
 天 野 藤 子
 河 田 光 恵
 中 塚 春 の
 西 原 みかえ
 小見山 し か

出演者名簿（昭和25年度第1回郷土芸能祭）

音 頭	天野花次郎	山川 廣吉	天野 千松	中塚 徳松	
太 鼓	西原 亀吉				
男 踊	大原 福松	天野 九市	天野 勉	西原 省三	天野 茂治
	原田 要	天野 太郎			
女 踊	天野 サン	山川 コマ	山川 かん	西原 ミツ	原田 ヨネ
	山川 雅子	原田 武子			
笠 踊	天野百太郎	原田耕之進	中塚 鉄男	中塚吉右エ門	中川源太郎
	西原 傳治	天野 茂治			
二ツ拍子	西原 勝美	中川 敏子	中塚 敏江	樋口 竹子	天野 鶴枝
	天野 クリコ				
実務引卒者	西原 寅吉				
事 務 局	山川 一尾				
代表者監督	山本 吉松				

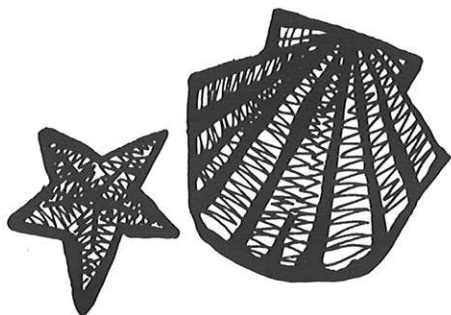
昭和25年頃の白石踊会

会の名称 白石踊会

会 長	山本 吉松	理 事	原田 梁作
副 会 長	西原 寅吉	〃	天野 長一
常任理事	山川 一尾	〃	中塚 清士
理 事	原田鹿太郎	〃	天野 寛
監 事	天野 好陽	〃	中川 民子
顧 問	中川 菊市	〃	天野 昇

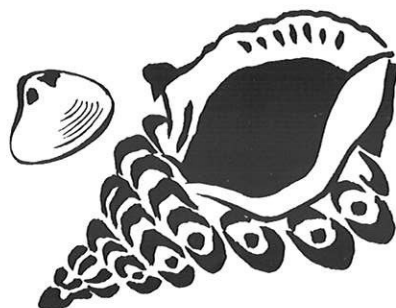


▲昭和25年8月28日、アメリカミシガン大学日本研究所
エドワード・ノーベック夫妻来島の折





▲昭和41年11月12日 高校生団体の施設慰問踊出発前、笠岡市庁舎前にて



●白石踊会役員名簿（昭和45年）

会 長	岡山県知事	理 事	中塚 清士
副会長	笠岡市長	"	高見 素夫
"	山川 一尾	"	山本 栄則
理 事	天野 寛	"	山川 雅子
"	天野 幸雄	監 事	原田 梁作
"	原田健治郎	"	藤井 雅夫
"	天野麻布美	事務取扱白石出張所主任	山川松芳

昭和45年 7月28～30日

万国博覧会「日本の祭り」出演者名簿

本部長 山川一尾(62) 副本部長原田梁作(46)

太 鼓	奴 踊	山川 吉美 16	西原 サカ 69
原田鹿太郎 64	山川 広蔵 26	原田 文子 17	二ッ拍子踊
音 頭	天野麻布美 56	樋口 初江 17	匹野 嘉美 22
中塚 鉄夫 39	中川 幸昭 37	女 踊	小見山立枝 23
樋口 長松 47	山川 藤松 67	山川 雅子 61	原田 良子 27
男 踊	樋口 定樹 16	原田富美代 45	樋口 里枝 18
西原 省三 45	原田 確 35	原田 チカ 56	河田 端恵 27
石井 謙吉 36	原田 秀人 17	山川 浅代 56	天野 洋子 20
天野 薫 29	仁井 徳男 29	山川アサエ 46	石井 靖子 28
山本 栄則 24	中川 武久 24	西原 ミツ 62	中塚 光代 20
白石 純一 28	原田 治夫 27	西原モト子 48	原田 峯子 18
天野 正 25	月見踊	原田 武子 56	西原美保子 23
山川 寅松 45	荻田 栄子 18	中塚 キク 50	中川 元美 17
小見山巳市 67	中塚ヨシ子 25	天野ヤツノ 64	小見山安美 17
天野 勉 60	山川 君代 21	天野 広美 23	中塚美代子 18
中塚 繁一 73	中塚 規江 17	西原 イシ 49	中塚千恵子 18
笠 踊	山川美枝子 17	山川オユウ 59	山川マヨミ 16
匹野 宗市 45	原田 婦貴 16	金子 ツマ 62	原田記三子 17
山川 享 43	山川 数美 16	中川サカエ 35	山本 松美 18
樋口 金一 68	原田比登美 16	山川トシ子 42	中塚 弘子 32
原田 信幸 17	原田 保恵 16	樋口 サキ 63	本部分
浜田優美男 21	天野 妙子 16	山川 芳子 48	中塚 清士 56
田原 満豊 22	匹野屋久代 16	浜田ツルエ 55	原田登喜子 36
山川 一法 17	原田貴美子 16	西原イチ子 53	市役所
大原 茂男 23	小見山佳代香 18	原田シマエ 40	木山 晴美 44
原田 金吉 18	天野 寿子 28	樋口 竹子 39	谷口 靖彦 40
原田 政勝 18	山川久留美 17	小見山オヨ子 55	信森 源吾 43



▲昭和46年 8月31日三木記念賞受賞時の白石踊会会員



12. 参考文献

—— 地理・歴史 ——

- 石田寛他 「笠岡諸島の地理」(岡山県土木部都市計画課編・刊『瀬戸内海島嶼部の自然と人文』1959, 所収)
- 岡山県編・刊『岡山県の歴史』1962.
- 緑川洋一 「白石島」(『瀬戸内海』日本文教出版1967, 所収)
- 黒崎秀明 「白石島」(岡山県観光連盟編『岡山の旅』日本文教出版1969, 所収)
- 谷口澄夫他 「中世1. 源平合戦のころ」(『岡山県の歴史』山川出版社1970, 所収)
- 多和田彦 「源平の古戦場」(『岡山の古戦場』日本文教出版1973, 所収)
- 藤井駿 「歴史的背景」(岡山県教育委員会編・刊『笠岡諸島の民俗——振興離島民俗資料緊急調査報告書(1)』1974, 所収)
- 岡山県高等学校教育研究会社会科部会歴史分科会 「大飛鳥遺跡と笠岡沖の島々」・「白石踊」(『岡山県の歴史散歩』山川出版社1976, 所収)
- 日本地誌研究所編『日本地誌・第17巻・岡山県・広島県・山口県』二宮書店1978.
- 無署名 「笠岡諸島」(『山陽新聞・笠岡井原園版』1979. 1. 5. 以降、断続的に連載中。)各島紹介、生活・産業観光・教育の各編は完結
- 巖津政右衛門「白石島」(『岡山の島』日本文教出版1979, 所収)

—— 白石踊 ——

- 桂又三郎『岡山県民謡集』岡山文献研究会1931.
- 桂又三郎『岡山県祭礼と盆踊』中国民俗学会1933.
- 白石島男女青年団『白石踊舞踊と民謡』1933.
- 河田喜代吉・筆写『白石盆踊唄』1948.
- 「白石踊」(文部省芸術祭執行委員会編『郷土芸能』所収、1950刊)
- 藤村作編『増補改訂・日本文学大辞典』(全7巻・別巻1)新潮社1950~52.
- 岡長平『岡山県の盆踊と民謡』岡山県教育委員会社会教育課1952.
- 岡山県芸能懇話会編・刊『ほにおどり』1952.
- 稲田浩二・新井久弥夫編『ふるさとの歌——岡山の民謡』日本文教出版1957.
- 笠岡市教育委員会編・刊『岡山県笠岡市・白石踊の資料』1957.
- 笠岡市教育委員会編・刊『白石踊くどき集』1958.
- 岡山県教育委員会編『岡山県の文化財・第4集』日本文教出版1961.
- 神野力「白石踊」(『岡山の祭と踊』日本文教出版1964, 所収)
- 三室清子「白石踊りの研究——ゝに舞踊的音楽的表現について」(『岡山大学教育学部研究集録』19号1965, 所収)
- 大田俱子『岡山県の民謡についての研究』私家版1968.
- 土井卓治・佐藤米司「民俗芸能(6)盆踊り——白石踊り」(『日本の民俗・第33巻・岡山』第一法規出版1972, 所収)
- 本田安次「白石島の盆踊」(『第1回日本民俗舞踊講習会テキスト』日本民俗芸能協会1973, 所収)
- 有森猛「民謡・童戯・盆踊」(前掲『笠岡諸島の民俗』所収)
- 佐藤米司「白石踊り」(岡山民俗学会編『岡山民俗事典』日本文教出版1975, 所収)
- 白石踊り会編・刊『白石踊音頭』1976.
- 無署名「白石踊」(笠岡市教育委員会編・刊『笠岡市の文化財』1976, 所収)
- 神野力「岡山白石島の盆踊り」(高橋秀雄・山路興造編『祭りと芸能の旅・第5巻・中国・四国』〈株〉ぎょうせい1978, 所収)
- 野上義臣採譜「白石踊音頭」(山陽新聞社編・刊『おかやまの民謡』1979, 所収)
- 神野力「白石踊り」(山陽新聞社編・刊『岡山県大百科事典・上巻あ~そ』1979, 所収)

あ と が き

国指定重要無形民俗文化財白石踊を継承する伝承者養成用テキストを作成するためテキスト作成委員会全員が一致協力して可能な限り実技の記録をし、出来る限り多くの文献を調査致しました。

写真については市役所関係の天野幸雄、内海義郎両氏に依頼し数百枚の前写、横写、頭上写を撮影致しました。

執筆は主として岡山民俗学会の佐藤米司・佐藤登美子・有元経治の三先生が担当され、民俗部門についてはかなり深く、また解りやすく記録出来たと考えております。又、踊りの部門については、「足が決まれば手が舞う」の如き流れる様な踊りであるため、関係者が再三手直しを行った上どうにか、伝承者養成用テキストとすることが出来ました。

もっとも、限られた時間内での調査、執筆であるため、不備な点もすくなくないと思います。今後皆さんの御批判をいただき、さらに適切なテキストに致したいと存じます。

この冊子を地元白石島の人にはもとより、少しでも多くの方々に読んでいただき、広く伝承者が育成されることを願ってやみません。

終りにあたり、白石踊を披露してくださった地元の方々をはじめ、表紙の画・書を登載いただいた、村川弦納画伯、西江皓雪氏、文献を提供して下さった三室清子氏、さらにまた山川一尾氏をはじめ白石踊会の方々に厚くお礼申し上げます。

昭和 54 年 3 月

白石踊伝承者養成事業テキスト作成委員会

笠岡市教育委員会

国指定重要無形民俗文化財

白 石 踊
伝承者養成テキスト

昭和54年3月20日発行

編集・発行 白石踊伝承者養成事業テキスト作成委員会
笠岡市教育委員会

岡山県笠岡市笠岡3190-3番地

印 刷 岡山県笠岡市入江38番地
ハラダ高速印刷

